

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品の名称	QMI バイオガードⅡ A剤
会社名	株式会社ソヴリン
住所	〒468-0052 愛知県名古屋市天白区井口1丁目601番地
電話番号	052-802-6378
FAX番号	052-805-0699
作成日	2013年8月30日
改訂日	2018年2月7日
推奨用途及び使用上の制限	本製品の主な用途は自動車内の抗菌防臭加工剤である。

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性 健康に対する有害性	引火性液体	: 区分2
	急性毒性(経口)	: 区分3
	急性毒性(経皮)	: 区分3
	急性毒性(吸入)	: 区分3
	皮膚腐食性/刺激性	: 区分2
環境に対する有害性	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	: 区分1
	特定標的臓器毒性(単回暴露)	: 区分1(中枢神経系、視神経)
	水生環境急性有害性	: 区分1
	水生環境慢性有害性	: 区分1

上記で記載がない危険有害性は、区分外、分類対象外、または分類できない。

絵表示又はシンボル



注意喚起語

危険

危険有害性情報

引火性の高い液体及び蒸気
 飲み込むと有害
 皮膚に接触すると有毒
 吸入すると有毒
 皮膚刺激
 重篤な眼の損傷
 水生生物に非常に強い毒性
 長期的影響により水生生物に非常に強い毒性
 吸入ばく露による臓器(中枢神経系、視神経)の障害

注意書き

【安全対策】

熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。—禁煙。
 容器を密閉しておくこと。
 容器を接地すること/アースをとること。
 防爆型の電気機器/換気装置/照明機器等を使用すること。

- 火花を発生させない工具を使用すること。
 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
 保護手袋/保護眼鏡/保護面を着用すること。
 取扱い後は手等をよく洗うこと。
 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
 保護手袋/保護衣を着用すること。
 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。
 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
 環境への放出を避けること。
- 【応急措置】**
- 皮膚(または髪)にかかった場合:直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと/取り除くこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。
 火災の場合:適切な消火剤を使用すること。
 飲み込んだ場合:直ちに医師に連絡すること。
 口をすすぐこと
 皮膚に付着した場合:多量の水と石鹼で洗うこと。
 気分が悪い時は、医師に連絡する。
 直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぐこと/取り除くこと。
 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。
 吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 医師に連絡すること。
 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断/手当てを受けること。
 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。
 眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 直ちに医師に連絡すること。
 暴露した場合:医師に連絡すること。
 漏出物を回収すること。
- 【保管】**
- 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。
 施錠して保管すること。
- 【廃棄】**
- 換気の良いところで保管すること。容器を密閉しておくこと。
 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区分 混合物
 成分及び含有量

化学名	濃度 wt%	CAS No.	化審法 No.	安衛法 No.
メタノール	50	67-56-1	(2)-201	560
オクタデシルアミノジメチルトリメチルシリルプロピル アンモニウム クロライド	30~60	27668-52-6	(2)-2095	-
クロロプロピルトリメチルシリル	1~10	2530-87-2	(2)-2079	-

化審法No.
 安衛法

: 化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律(化審法)官報公示整理番号
 : 労働安全衛生法 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物 政令番号

4. 応急措置

吸入した場合

呼吸が困難な場合には新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
必要に応じて酸素または人工呼吸。被災者が本物質を吸引した場合は口うつし人工呼吸を行ってはならない。一方弁を備えたポケットマスクまたはその他の適切な呼吸医療機器を用いて人工呼吸を誘発する。

直ちに医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、又は取り去ること。

多量の水と石鹸で洗うこと。

皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。

汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

医師の手当、診断を受けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。

医師の指示がない限り、吐かせてはならない。

意識がないまたは痙攣している被災者の口から、物を絶対に与えないでください。

応急措置をする者の保護

直ちに汚染された衣服を脱がせる。気分がすぐれないときは医療処置についてアドバイスを求める。(可能ならばラベルを見せる)

医療スタッフに物質が何であるかを伝え、自身の保護措置にも気をつけさせる。

汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

医師に対する特別な注意事項

一般的な処置および症状にあわせた適切な治療を施す。

火傷:直ちに水で洗い流す。洗いながら火傷の部分に付着していない衣服を取り除く。救急車を呼ぶ。病院への搬送中も水洗いを続ける。

被災者の観察を続ける。症状は遅れて出てくることもある。

5. 火災時の措置

消火剤

噴霧水、耐アルコール泡、粉末消火剤、二酸化炭素(CO₂)

使ってはならない消火剤
特有の有害危険性

消火に水噴射をしない。これは火災を拡散することになる。

蒸気は、空気と混合し、爆発性混合物を生成することがある。

蒸気は発火点までかなりの距離を移動し、フラッシュオーバーすることがある。

火災によって刺激性、腐食性及び/又は毒性のガスを発生するおそれがある。

火災の際は健康に有害なガスが生成されることがある。

特有の消火方法

火災や爆発の場合、フュームを吸入してはならない。

危険でなければ火災区域から容器を移動する。

消火を行う者の保護

消火の際は、必ず適切な防護具(自給式呼吸器、防火服、ゴム長靴、その他防護具)を着用する。

6. 漏出時の措置

<p>人体に対する注意事項、 保護具及び緊急措置</p>	<p>漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。 作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。</p>
<p>環境に対する注意事項</p>	<p>環境中に放出してはならない。 河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。</p>
<p>回収、中和</p>	<p>乾燥した土、砂あるいは不燃性物質で吸収し、あるいは覆って容器に移す。 少量の場合、パーミキュライト、砂、土等不燃材料に吸収させ、空容器に回収する。後で廃棄処理する。</p>
<p>封じ込め及び浄化の 方法・機材</p>	<p>少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で覆い更にプラスチックシートで飛散を防止し、雨に濡らさない。 大量の場合、水で湿らせ、防護囲いをし、後で廃棄処理する。</p>
<p>二次災害の防止策</p>	<p>排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。 すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。</p>

7. 取扱い及び保管上の注意

<p>取扱い</p> <p>技術的対策</p>	<p>自給式呼吸器、保護眼鏡、保護手袋等の適切な保護具を着用。 『8. 暴露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。</p>
<p>局所排気・全体換気 安全取扱い注意事項</p>	<p>『8. 暴露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。 可燃物から遠ざけること。</p>
<p>接触回避</p> <p>保管</p> <p>混触危険物質 保管条件</p>	<p>『10. 安定性及び反応性』を参照。 空容器は残留物を有する可能性がある。 『10. 安定性及び反応性』を参照。 直射日光を避け、暗所、室温で保管する。 光、熱源、発火源、引火性物質または可燃性物質から離れた場所に保管する。 直射日光が入らない、涼しく乾燥した場所に貯蔵すること。 容器を密閉して換気のよい場所で保管すること。</p>
<p>容器包装材料</p>	<p>製品使用の容器に準ずる。</p>

8. 暴露防止及び保護措置

<p>管理濃度</p> <p>許容濃度</p>	<p>200ppm メタノール 日本産業衛生学会。皮膚から吸収される可能性がある。 OEL-M:200ppm 8時間 OEL-M:260mg/m³</p>
<p>設備対策</p>	<p>防爆仕様の局所排気装置を設置する。 静電気放電に対する予防措置を講ずること。 この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。</p>
<p>保護具</p> <p>呼吸器の保護具</p> <p>手の保護具</p> <p>眼の保護具</p> <p>皮膚及び身体の保護具</p>	<p>有機蒸気呼吸缶付き化学用マスク。 適切な保護手袋を着用すること。 薬品ゴーグル及びフェイスシールドを使用してください。 適切な化学薬品性の衣服を着用する。 不浸透性のエプロンの使用が望ましい。</p>
<p>衛生対策</p>	<p>この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。</p>

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態

形状	液体
色	無色か薄黄色
臭気	溶剤臭
pH	データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲	64°Cより高い
引火点	11.1°C(密閉式)
密度(比重)	データなし
溶解性	水に可溶

10. 安定性及び反応性

安定性	通常の手扱いにおいては安定である。
危険有害反応可能性	通常の手扱いでは危険有害な反応は起こらない。
避けるべき条件	裸火及びスパーク発生装置から遠ざける。
混触危険物質	強酸化剤。水、湿気。硬化剤。アニオン性界面活性剤。
危険有害な分解生成物	通常の手扱い及び使用条件下では、危険な分解生成物は生成されない。

11. 有害性情報

急性毒性	蒸気 LC50 >81.9mg/l ラット 経口 LD50 12.27g/kg ラット 経皮 LD50 >7.95g/kg うさぎ
皮膚腐食性・刺激性	皮膚刺激
眼に対する重篤な損傷・刺激性	重篤な眼の損傷
呼吸器感受性又は皮膚感受性	感受性なし
生殖細胞変異原性	変異原性なし
生殖毒性	生殖毒性なし
発がん性	分類できない
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	吸入すると臓器(中枢神経系、視神経)の障害

12. 環境影響情報

環境に対する有害性	長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性。
生態毒性	
甲殻類(ミジンコ/48時間)	LC50 06.-0.85 ppm , 48hours
残留性	データなし
分解性	データなし
生態蓄積性	データなし

13. 廃棄上の注意

すべての廃棄物の性状の確定及び法令への適応は廃棄物発生事業者の責任に帰する。本品製造者の責任は本品を使用又は取扱う如何なる第三者の管理業務又は製造工程にも及ぶものではない。本項に示す情報は SDS 2 項にて特定した性状(成分等)で出荷された製品に対してのみ適用される。

残余廃棄物	処理等を外部の業者に委託する場合は、関係法令を順守し、都道府県の認可を受けた処理業者に危険性・有害性を十分告知の上、処理を依頼する。 廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。
汚染容器および包装	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制	
海上輸送	IMDGの規制に従う
航空輸送	ICAO/IATAの規制に従う
国連番号	1230
輸送品名	Methanol Solution
クラス	3, 6.1
容器等級	II
海洋汚染物質	該当
特別安全対策	容器の破損、漏れが無いことを確かめ、衝撃・転倒、落下・破損の無いように積込み、荷崩れ防止を確実に進行。
緊急時応急措置指針番号	131

15. 適用法令

この SDS は日本国の規則、要求項目に準じて作成しております。日本以外の国についてその国の関係法令を遵守する必要があることに注意してください。

消防法	第4類第1石油類(水溶性)危険等級Ⅱ(400L)
化審法	優先評価化学物質(法第2条第5項)
労働安全衛生法	労働安全衛生法第57条の名称等を表示・通知物質に該当 (メタノール 40-50%含有)
有機溶剤中毒予防規則	第2種有機溶剤等 (施行令別表第6の2・有機溶剤中毒予防規則第1条第1項第4号)
毒物及び劇物取締法	該当しない
PRTR 法	非該当
外国為替及び外国貿易法	輸出貿易管理令別表第1の16項

16. その他の情報

主な引用文献	原料メーカーのMSDS及びSDS 溶剤便覧 等
--------	----------------------------

※注意

記載内容は、現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては、いかなる保証をなすものではありません。また、記載事項は通常の取扱いを対象としたものですので、特別な取扱いをする場合には新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。